

ナラ材の等級別格差について

寺 江 国 勝
鈴 木 博 司

1. ま え が き

工場製材に於て挽立素材の良、不良によりその歩止りに著しい差を生ずる事は勿論であり、各樹種についてその素材格差を知る事は大切な事である。就中輸出材の大半を占める道産ナラ材については、その重要性から、各等級の素材を挽立てせる場合、その価値止りより考察し溯つて素材の等級別価格較差を捉え、Ⅱ等材或はⅢ等材といわれるものはⅠ等材に較べ如何程の実質的価値を有しているか調査した。

2. 方 法

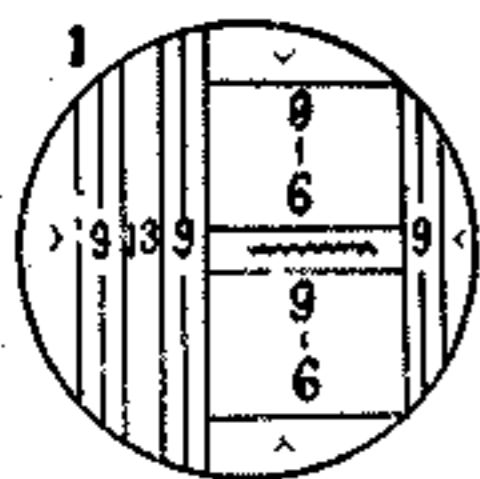
- (イ) 当所工場のナラ素材の内より径級1尺3寸~1尺8寸の中径木をⅠⅡⅢ等各一定石数抽出し、素材の欠点は各等級に許される最大量を含むもので、各等級毎に均衡のとれる様に配慮した。
- (ロ) 製品は輸出向材を主に、他は内地向一般材をとり、出来る限り採材の集約化を計つた。
- (ハ) 上記により採材せる製品について各等級毎に集計し、材材についてはチェックプライス、内向材については一般市場価格を乗じ、各々石当り製品価格よりその素材較差を知る。
- (ニ) 各等級の素材形状特質により、その作業上に及ぼす影響については、此の際考慮に入れない。

3. 経 過

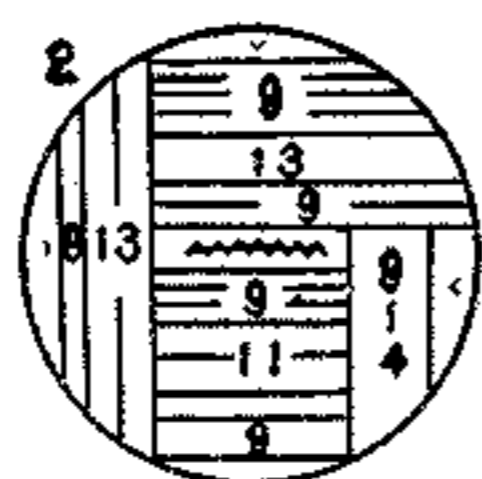
(イ) 供試材、使用せる素材の内訳は下記の如くであつた。

区分	素材品等	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	計
本数		4	6	6	16
材積		9石25	15石01	15石62	39石88
石廻り		2石31	2石50	2石60	

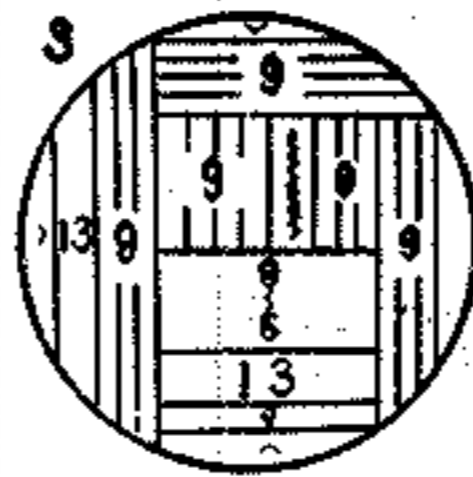
(ロ) その木取図は下記の如くであつた。



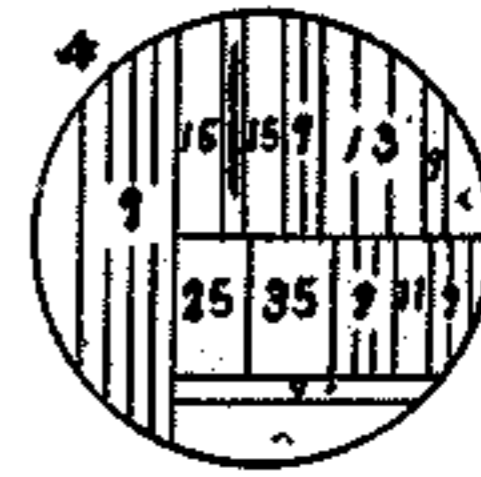
Ⅱ 12尺×1尺30=2石03



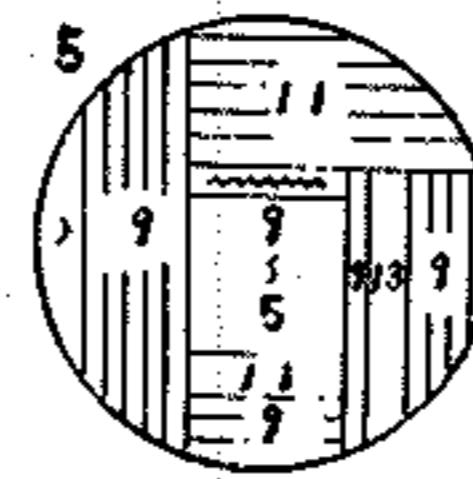
Ⅲ 8.5×155=2.04



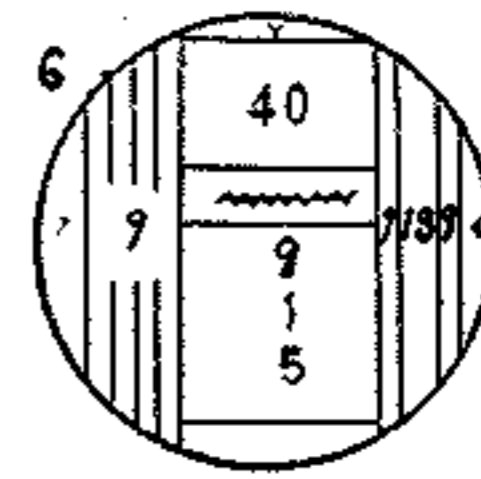
Ⅲ 12.5×175=3.83



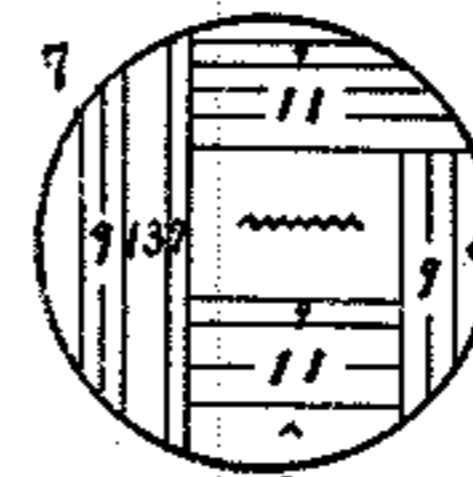
Ⅲ 8.4×195=3.04



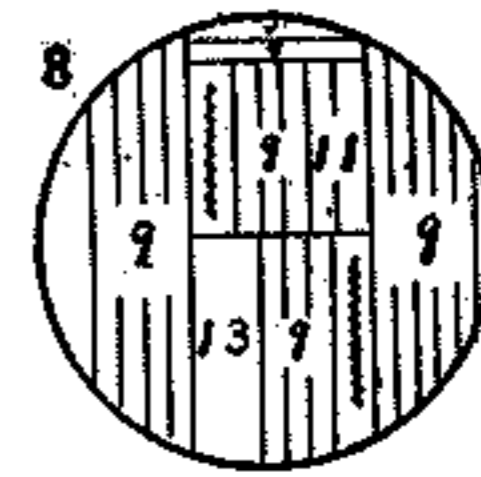
Ⅰ 8.5×145=1.79



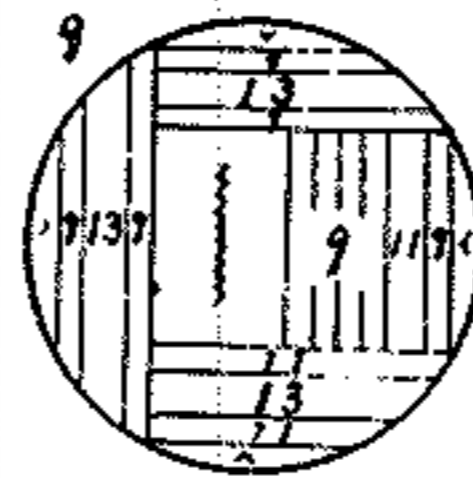
Ⅱ 12×130=2.03



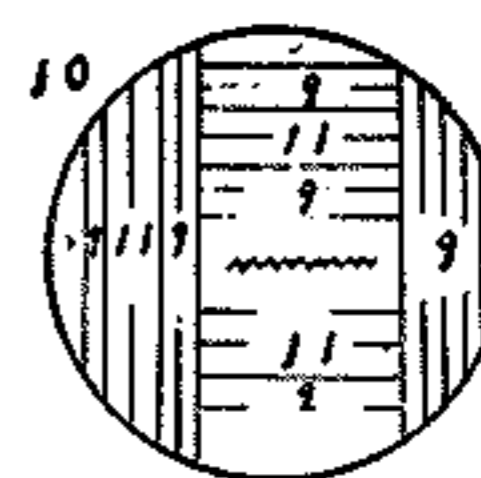
Ⅲ 8×150=1.80



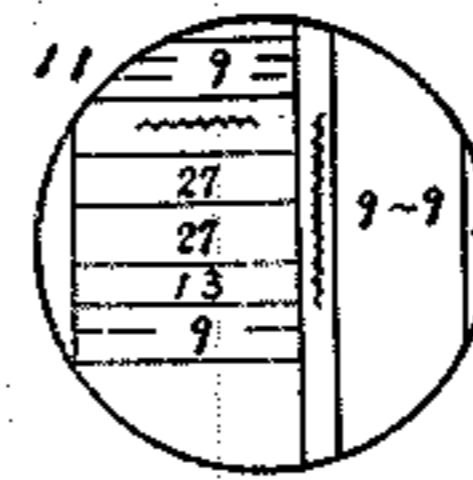
Ⅱ 12.5×150=2.81



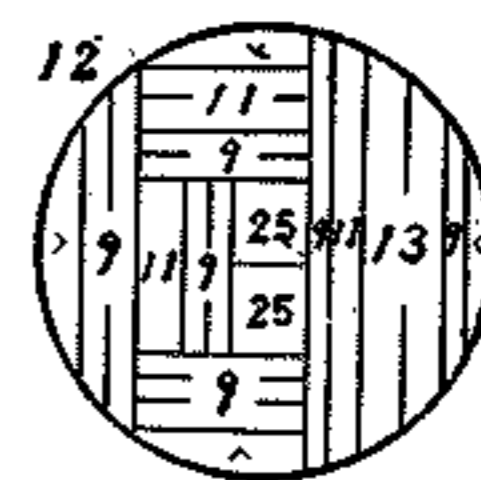
Ⅱ 10.4×140=1.96



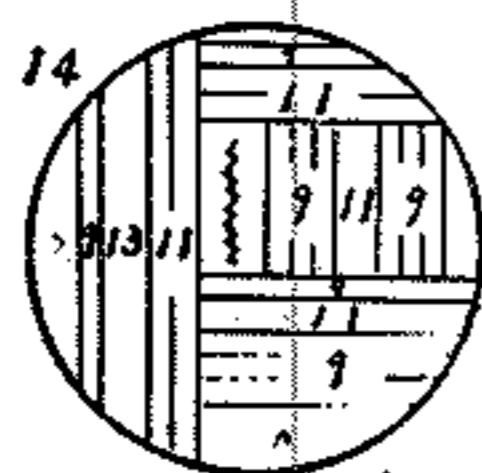
Ⅰ 8.1×160=2.05



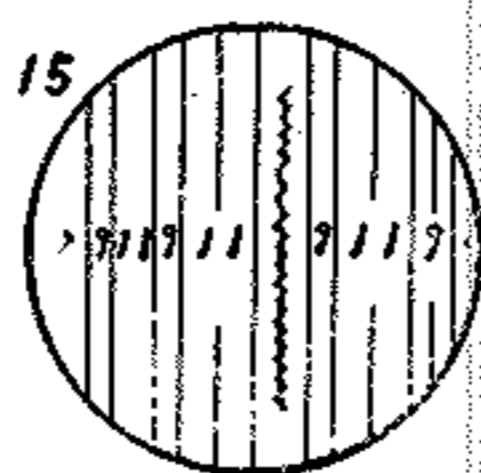
Ⅱ 8.4×165=2.18



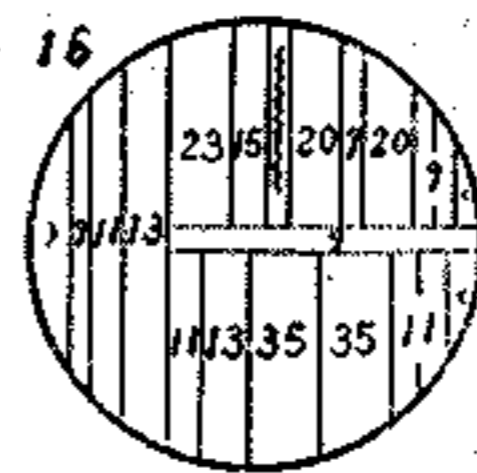
Ⅲ 12.3×155=2.88



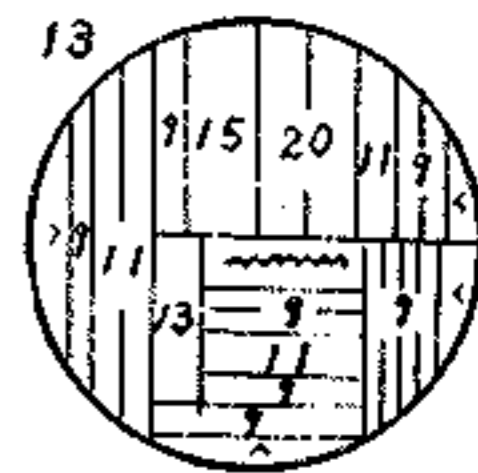
II 10.6×180=3.40



II 12.6×145=2.63



I 10.1×135=1.82



I 10.5×185=3.59

(イ) 採材製品の材種別割合は概略下記の如くであった。

素材品等	材種 材積 歩止り	材 材							内 向 材					合計	
		板目板	柱目板	ステツ プ	コフイ ン	ストリ ツプス	パーケ	計	平板	小巾板	平割	正割	コア		計
I	%	28.1	13.2	5.8	3.4	1.7	2.4	54.6	5.2	3.2	4.6	0.4	1.2	14.6	69.2
II	%	26.2	10.5	1.2	1.3	1.3	5.1	45.6	4.5	6.6	4.2	0.6	2.5	18.4	64.0
III	%	19.9	4.0	0.6	0.5	2.1	4.5	31.6	14.5	5.7	5.0	3.2	4.7	33.1	64.7
平均	%	24.7	9.2	2.5	1.7	1.7	4.0	43.9	8.1	5.2	4.6	1.4	2.8	22.1	66.0

(ロ) 採材製品の歩止りよりその等級別の価値について考察せる結果下記の如くであった。

素材	製 材				合 計			
	等級別	材 積 石	材 積 石	金 額 円	材 積 石	金 額 円	材 積 石	金 額 円
I	9石25	5.046	42.889	1.214	3.118	6.260	46,007	
II	15石01	6.850	53.175	2.394	5.951	9.244	59,126	
III	15石62	4.919	32.617	4,009	10.714	8.928	43,331	

(ハ) 表よりその価値歩止りを考えると等級別の石当り単価は下記の如くなる。

素材品等	製 材 価 格		
	材 積 石	材 積 石	金 額 円
I	8.400	2.568	7.349
II	7.763	2.486	6.396
III	6.631	2.424	4.854
平均	7.598	2.493	6.200

4. 結 果

(3)の経過より考えI、II、IIIの各等級の素材を対象として、視立てをなす場合素材品等I等のものの価格指数を100とすると

(イ) 材材のみについての等級別製材較差はなる指数で

素材品等	I	II	III	平均
格 差	100	92.4	79	90.3

あり

(ロ) 内向一般材のみについては次表の通りであり

素材品等	I	II	III	平均
格 差	100	96.4	94.2	97

(ハ) 総合的に各等級の素材価値の格差を求めると次表の数值が得られた。

素材品等	I	II	III	平均
格 差	100	87	66	84.4

5. 補 足

標題の調査事項について以上の如き結果を得たが、勿論、供試素材の数の少い点もあり、正確な数值とは云えないかも知れないが、尚遂次如上の調査を累積することにより、適正なる素材格差の基礎資料となると思われる。

(指導所中間試験部)

ナラ材の等級別格差について

寺 江 国 勝
鈴 木 博 司

1.ま え が き

工場製材において挽立素材の良、不良によりその歩止りに著しい差を生ずる事は勿論であり、各樹種についてその素材格差を知る事は大切な事である。就中輸出材材の大半を占める道産ナラ材については、その重要性から、各等級の素材を挽立てせる場合、その価値止りより考察し溯って素材の当級別価格較差を捉え、等材或は等材といわれるものは等材に較べ如何程の実質的価値を有しているか調査した。

2.方 法

- (イ) 当所工場のナラ素材の内より径級 1 尺 3 寸 ~ 1 尺 8 寸の中径木を 等各一定石数抽出し、素材の欠点は各等級に許される最大量を含むもので、各等級毎に均衡のとれる様に配慮した。
- (ロ) 製品は輸出向材を主に、他は内地向一般材をとり、出来る限り採材の集約化を計った。
- (ハ) 上記により採材せる製品について各等級毎に集計し、材材についてチェックプライス、内向材については一般市場価格を乗じ、各々石当り製品価格よりその素材較差を知る。
- (ニ) 各等級の素材形状特質により、その作業上に及ぼす影響については、此の際考慮に入れない。

3.経 過

(イ) 供試材、使用せる素材の内訳は下記の如くであった。

(ロ) その木取図は下記の如くであった。

1	2	3
12 尺 × 1 尺 30 = 2 石 03	8.5 × 155 = 2.04	12.5 × 175 = 3.83
4	5	6
8.4 × 195 = 3.04	8.5 × 145 = 1.79	12 × 130 = 2.03
7	8	9
8 × 150 = 1.80	12.5 × 150 = 2.81	10.4 × 140 = 1.96
10	11	12
8.1 × 160 = 2.05	8.4 × 165 = 2.18	12.3 × 155 = 2.88

14	15	16
$10.6 \times 180 = 3.40$	$12.6 \times 145 = 2.63$	$10.1 \times 135 = 1.82$
13		
$10.5 \times 185 = 3.59$		

(ハ) 採材製品の材種別割合は概略下記の如くであった。

(二) 採材製品の歩止りよりその等級別の価値について考察せる結果下記の如くであった。

(ホ) 表よりその価値歩止りを考えると等級別の石当り単価は下記の如くとなる。

4. 結 果

(3)の経過より考え、
、
の各等級の素材を対象として、挽立てをなす場合素材品等
等のものの価格指数を 100 とすると

(イ) 吋材のみについての等級別製材較差はなる指数であり

(ロ) 内向一般材のみについては次表の通りであり

(ハ) 総合的に各等級の素材価値の格差を求めると次表の数値が得られた。

5. 補 足

標題の調査事項について以上の如き結果を得たが、勿論、供試素材の数の少ない点もあり、正確な数値とは云えないかも知れないが、尚逐次如上の調査を累積することにより、適正なる素材格差の基礎資料となると思われる。

(指導所中間試験部)